

# トンボの一生

トンボは、幼虫(ヤゴ)は水中で暮らし、成虫は水辺周辺で暮らし、トンボの一生をのぞいてみましょう。



〈ヤゴ〉産みつけられた卵はその後、ふ化し、ヤゴとなります。ヤゴは水中の生き物(ミジンコやイトミミズ、子魚など)を食べ、10回ぐらい脱皮して大きくなります。

〈羽化〉ヤゴは成長し、トンボになる準備ができると、水辺の植物などにつかまり羽化(はねのある成虫になるための脱皮)をします。



## トンボの一生

※シオカラトンボを例にしています。

〈未成熟〉羽化後、しばらくは周りの草地や林のふちでエサを食べ、はんしょくができる体をつくります。このじきを未成熟期といいます。



〈成熟〉羽化後、1~2週間ぐらいたつと体が成熟してはんしょくができる体になります。成熟するとオスはメスと出会うため、水辺でなわばりをつくります。

※トンボは成熟するにしたがい、体の色つきがこくなり、中には大きく体色が変化する種があります。上の未成熟と左の成熟個体の写真はいずれも、シオカラトンボのオスの写真です。シオカラトンボのオスは、未成熟の時は麦わら色をしています、成熟すると青白くなります。



〈交尾〉オスのなわばり内にメスがやってくると、オスはすかさずメスにアタックし交尾します。



〈産卵〉交尾が終わると、オスはメスを放して、産卵が始まります。産卵は、産卵中にじゃまが入らないよう、オスがメスを見守りながら行われる場合もあります。

